

企画展「龍角寺古墳群とその時代」に関する考古学講座

講座のねらい

今年度の企画展「龍角寺古墳群とその時代」では、龍角寺古墳群が隆盛を極めて、列島最大の方墳「岩屋古墳」や古刹「龍角寺」を築くに至った飛鳥時代前期の様子について、大和との関係や飛鳥文化の受容に至る経緯を取り上げている。この内容を広く一般に理解してもらい、一方では考古学・歴史学・仏教美術の研究成果により深く触れてもらうために、それぞれの専門家を招いて4回企画した。

講座の様子

通常の講座は、風土記の丘資料館の集会室（座席数 60）で行っており、座談会やシンポジウム、記念講演等は館内の旧学習院初等科正堂（座席数 200）を会場にしている。



第1回 「前方後円墳の終焉と律令国家への胎動」



第3回 座談会「龍角寺古墳群とその時代」

参加者の声

講演後の会場からは、やや的外れの質問もあるが、講演の内容に即した講師への質問が多々あり、講師はそれぞれ丁寧に応えてくれるので充実した質疑応答となっている。講座のリピーターが多く、座席数 60 のうち半分は常連の参加者である。今年度は、資料館の講座への参加者がいずれも定員をオーバーしており、関心の高さがうかがえた。

成果と課題

今年度は、久しぶりに風土記の丘資料館担当による考古資料の企画展が開催される年に当たったので、テーマ設定がわかりやすく、会場の臨場感もあった。房総のむらの性格上、民俗を主体とする企画展が大半を占めるため、企画展とは連動しない講座をどのように進めていくか、常連の参加者をどのように定着させて増やしていくか、毎年のテーマ設定に工夫が必要である。